

## ■秋祭りの季節です

毎年9月は各地区の秋祭りの時期です。例年であれば、各地区の公会堂やお宮で毎夜、神楽の練習が行われます。しかしながら、今年も新型コロナウイルス感染防止のため、すべての地区で宵宮や朝舞は中止となっています。地区の結束を高める行事の一つですので、来年は開催できることを切に願います。

本来であれば、秋祭りの様子などお伝えしたいところですが、今回は村の秋祭りの概要について紹介します。

各地区には、そこで暮らす人々(氏族・氏子)を守る鎮守の神、氏神を祀っているお宮(神社)があります。これらの神社で行われる様々な祭礼のなかで最も重要なものが例大祭、つまり秋祭りで、神社創建を祝うお祭りです。村内各地区では他にも、五穀豊穰を祈願する春祭りや、豊作を神に感謝する新嘗祭、元旦祭、子どもの育成を祈願する道祖神祭りなど、数々の祭礼が地区ごとに行われています。

このようなお宮や祭礼の原型は鎌倉・室町時代まで遡るとされていますが、当時は今のような形ではなく、祠や洞窟のようなところでごく小規模にお供え物や神事を行っていたとされています。今のようなお宮ができ、獅子舞が奉納されるようになったのは江戸時代の終わり頃だろうと言われています。

また、舞いや登場人物も、獅子や天狗、面かぶり(ひよっこ)・おかめ)など地区によって様々です。近隣の山ノ内町や飯山市、野沢温泉村など、地区ごとに様々なルーツがあり、登場人物やお囃子唄なども地区によって異なります。近隣には信濃の三大修験場(飯綱、戸隠、小萱)があるので、その影響も多く受けていると考えられています。中には村内の地区から地区へと伝承されているところもあり、似通ったものもありますが、まったく同じ形態のものは一つとしてありません。

近年は高齢化・人口減が進み、お祭りの継続が困難になりつつあるのが現状です。ここ数年の間に宵宮や獅子舞の奉納をやめてしまった地区もあります。コロナを機にやめてしまう地区も増えるかもしれません。しかしながら大切に守り続けてきた伝統です。どうか継続していきたいですね。

村のケーブルテレビでは、伝統文化の保存の観点から各地区のお祭りの映像を保存しています。有償でDVDへのダビングが可能ですので、希望されるかたは事務局までご連絡ください。



【2019年 中村区のお祭りの様子】



写真提供：高木佑至

## 寄稿

### 『村の俳句石碑を巡って』

小林 荘志 (内山出身)

私は81歳のボケ老人です。お陰様で今も健康に過ごしています。健康保持のために、毎週1回藤市のボウリング場ラウンドワンでボールを3ゲーム投げ、また、下手なゴルフも楽しんでます。また、総務省の調査員として家計消費動向調査や諸アンケート調査を、車をやめて歩いて、調査宅を戸別訪問するなどして、月に20日以上、1日で7千〜1万歩以上を歩き、足を鍛えています。少しでも頭脳を使ってボケ防止になればと思つて頑張つてます。

俳句にも興味を持ち、長野県高等学校同窓会東京連合会での俳句勉強会にも参加し、約30人の仲間たちと毎月1回、松本の宮坂静生先生(近代日本俳句協会最高顧問)の指導を仰ぎ、自作俳句には未だ自慢できる句はありませんが、弱い頭を使って大いに鍛え、楽しんでます。中学校の国語の時間、あの俳句師として人生苦を生き抜いた「奥の細道」の松尾芭蕉や幕末期に町人文化爛熟、野暮な民家文化併存時代に教養が無くても実感で俳句を詠みながら全国を巡った、柏原村の小林一茶らを授業で教わったものですが、今になって、改めて彼らの凄さ、偉人さを教えさせられています。

先日、実家の法事で帰省した折、木島平村に松尾芭蕉の俳句碑が沢山あることを知り、石碑と俳額巡りをしてきました。湯田中温泉に沢山ある小林一茶の俳句碑も有名ですが、木島平村にもある沢山の句碑や俳額も有名です。以降に村に建立されている芭蕉の句碑と俳額を紹介します。皆さんもご興味ありましたら、どうぞ参考にさせていただければ嬉しいです。

大町の御嶽山の「行く春や鳥鳴き魚の目はなみだ」や、西町の天然時には「やがて死ぬけしきは見えず蝉の声」、また高石の県道脇に「梅が香にのつと日の出る山路かな」、「しら露もこぼさぬ萩のうねりかな」、「道草にまた色もなや春の月」、立石の「けごろもにつみてぬくし鴨のあし」、南鴨の神社には「この松の実生せし世や神の秋」、馬曲には「家遠く見えて田中の月と雨」、計見の上土手の桜木の下には「一山は雑木立なり雉の声」、この他にも、現地へは行けなかったが原大沢の神社参道、樽滝の玉滝不動など、村には11基の芭蕉句碑が点在することであり、その数は他の市町村に比べても多いといえるとのことです。木島平村の人たちの俳句熱は、明治、大正になつても盛んだつた様子で神社等への俳額の奉納も多く、今はすぐく貴重な文化財です。新型コロナ感染禍で帰省さえ出来ないこの頃です。早くこの感染禍が収まり、自由に行動できる日が1日も早く来ますことを強く願っています。



大町の御嶽山  
「行く春や 鳥鳴き魚の  
目はなみだ」

#### 会報原稿募集中!

【毎月5日までに左記へご送付ください。】

【送付先】〒389 2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局

FAX 0269 824121

✉ seisaku@vil.kijimadaira.lg.jp